

## 第2回 小出記念日本語教育研究会ワークショップ

# 日本語のオンライン授業： 学習管理運営システム（LMS）とオンデマンド型授業の展開



開催日：2020年8月28日（金曜日）

開催時間：午後8時から午後10時までの2時間

開催方法：ZOOMによる開催（アクセス情報はメールにてお知らせいたします。）

会員・非会員にかかわらず**参加費無料**

**20:00～20:05** 開催挨拶とセミナー全体の説明  
(名古屋大学・教授 玉岡賀津雄)

**20:05～20:55** 第一部  
「効果的な同期型双方向（ライブ配信）授業を実現するための  
LMSの活用と授業デザイン」  
(一橋大学・特任講師 早川杏子)

**20:55～21:00** 休憩

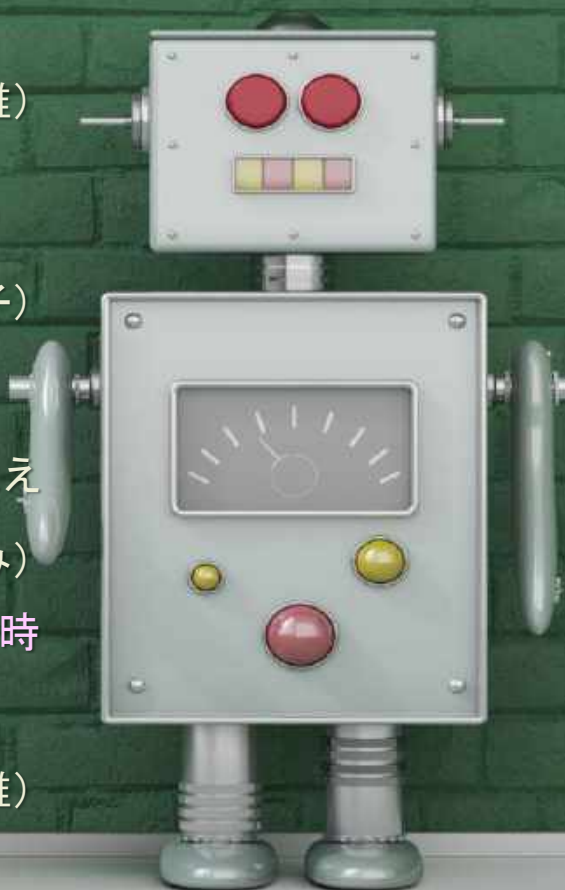
**21:00～21:55** 第二部  
「オンデマンド型授業におけるチーム・ティーチング授業で見えたもの」  
(愛知大学・准教授 高村めぐみ)

**注：**質疑応答は発表時間に含まれています。チャットに書き込んだ質問は随時  
受付いたします。

**21:58～22:00** 閉会挨拶  
(名古屋大学・教授 玉岡賀津雄)

問い合わせ：名古屋大学・教授 玉岡賀津雄（たまおか かつお） Email: ktamaoka@gc4.so-net.ne.jp

宮崎大学・講師 張婧禕（ちょう せい） Email: jingyizhang@cc.miyazaki-u.ac.jp





### AGENDA

1. 授業形態・対象授業
2. 配信方法・学習管理システム（Learning Management System）
3. 授業デザイン
4. 授業運営方法
5. 実践後の所感

### 1. 授業形態・対象授業

オンライン授業は、配信形態もしくは通信コミュニケーションの方法からそれぞれの型に分類できる

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 配信形態</li> <li>①オンデマンド配信（非同期）型</li> <li><b>②ライブ配信（同期）型</b></li> <li>③ハイブリッド（①と③の混合）型</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 通信コミュニケーション方法</li> <li>①一方向型</li> <li><b>②双方向型</b></li> </ul>
---	--

■ 対象授業

日本語 I（春夏学期2セム） 対象：学部留学生（1年生）10名 4月入学，受講者は全員来日済

期間：10週×週1 内容：大学の学びに必要なアカデミックな場面における**口頭能力**を身につける

### 2. 配信方法・学習管理システム（LEARNING MANAGEMENT SYSTEM; LMS）

オンライン授業では配布物・提出物が対面でできないため、学習管理システム（LMS）の使用が不可欠

2つのLMSを併用

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Google Classroom</li> <li>G Suite for Educationサービスの一つ</li> <li>google アカウントを持っている人は無料で使用可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ manaba（朝日ネット）</li> <li>本学が採用しているLMS + Respon</li> <li>出席や簡単なアンケート集計アプリも付帯</li> </ul>
---	---

通信環境	国によってGoogleのサービスが使用できないことも	アカウント認証されればどこでも使用可
容量	大容量のファイルのアップロードが可能	一回当たりの容量制限
セキュリティ面	教員が招待orクラスコード保持者によるアクセス	アクセス制限あり（担当教員・受講者のみ）
課題管理	期日や公開日時が設定できるが、非公開にするにはひと手間必要	小テストや課題に関して締切や公開日時が細かく設定できる

### LMSの選択

- Google ClassroomをメインのLMSとした背景と理由
  - 評価と関係あり

成果物には、次のようなことを計画していた

- ① 意見述べてを映像録画し、提出する
  - ← 容量制限があると難しい
- ② 音声（ナレーション）付きのPPTを提出
  - ← これも容量制限があると難しい

これまでPPTのみを提出させていたが、対面でチェックできない分、話し方のフィードバックをするために音声を付けさせる

※ PPTにナレーションを付ける方法を紹介しているサイトを学生に紹介（ネット検索して一番わかりやすかったもの、YoutubeなどでもOK）特に指導しなかったが、ちゃんとできていた（さすがデジタル世代）

### MANABA (LMS) & RESPON (ACTIVE LEARNING TOOL)

- Manaba … 教育機関向け クラウド型LMS+ポートフォリオ（有料）

- ① 担当クラスリスト…ウェブシラバスと紐づけ
- ② 受講者リスト…ウェブシラバスと紐づけ、自動or手動
- ③ お知らせ・リマインドメール機能
- ④ 教材配布機能…ポートフォリオ
- ⑤ 小テスト…日時・公開/非公開・採点方法（自動/手動）の設定が細かくできる
- ⑥ 提出物管理…レポート等宿題の管理 日時・公開/非公開設定が細かくできる  
ブラウザ上からのフィードバックも可能
- ⑦ スレッド（掲示板）…授業外でのコミュニケーションに活用できる
- ⑧ 成績管理機能…⑤、⑥の採点や集計


### それぞれのインターフェイス ~manaba~

- 機能ごとにタブがまたがっている
- お知らせ機能はメールとの連携可
- 授業外での質問やディスカッションに活用可
- 配布・参考資料はここにポートフォリオ化


### それぞれのインターフェイス ~manaba~

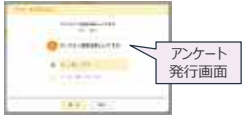
- 課題提出ページ
- 受講者間で共有したい場合「相互閲覧」、個別にフィードバックしたい場合は「個別指導」を選択
- 受理期間の日時設定
- 公開期間やリマインダーの設定 非公開にすれば受講者は内容が見られなくなる  
★評価に関わる課題を出す時に重要な機能

### MANABA (LMS) & RESPON (ACTIVE LEARNING TOOL)

- Respon ...リアルタイム・アンケート ★単体でも使える！  
 (携帯用アプリ、PCブラウザ) <https://respon.jp/>  
 ← どちらからでもダウンロード可

有料：出席管理、アンケート etc  
 無料（制約あり）：アンケート（右図）→ 結果を画面共有  
 ★ 同期型双方向授業の活性化に一役買うかも



アンケート発行画面 

Youtube 教育機関向けrespon 教員用チュートリアル③：授業でレスポンス～LIVE画面の使い方～  
[https://www.youtube.com/watch?v=1N9J9mI\\_k](https://www.youtube.com/watch?v=1N9J9mI_k)

### GOOGLE CLASSROOMへのアクセス その①

- Google Classroom [https://edu.google.com/intl/ja/products/classroom/?modal\\_active=none](https://edu.google.com/intl/ja/products/classroom/?modal_active=none) からログイン



Google Classroomを選択

### GOOGLE CLASSROOMへのアクセス その②

- Gmail から




ボタンをクリック

Gmailをよく使う人にとっては  
 こちらのほうが便利

一番下にあります

### GOOGLE CLASSROOMの設定

- 初期画面（教員側）  
 アカウントを選択し、クラスを作成する



右上の "+" をクリック → 「クラスを作成」

アカウントを選択

### GOOGLE CLASSROOMの設定

- 初期画面 (教員側)

13

### GOOGLE CLASSROOMの設定

- クラスへの参加方法 その①
- クラスコードを配布 (大中サイズクラス向け)

トップ画面にクラスコードがある

このマークを押すと大きく表示されるので、画面を共有して学生にコードを入力してもらう  
→入力が完了すると自動的に受講者がリスト化

- 今回は、初日当日に配布したシラバス・スケジュール内にクラスコードを挿入 (オフラインでも参照できるように)
- 初日から使いたい場合は、初日前までにウェブシラバス等を通して、クラスコードを開示しておく必要 (※セキュリティ注意)

14

### GOOGLE CLASSROOMの設定

- クラスへの参加方法 その②
- 教員が招待 (小サイズクラス向け)
- 1つずつ入れる必要があるので大人数には向かない

15

### それぞれのインターフェイス ~Google Classroom~

- 授業に関するページが一つにまとまっている
- ★配布物や提出物をあちこち探す手間がなくなる
- ・トピック名は管理者が自由に編集できる
- ★表記名は統一したほうが整理しやすい

16

### 3. 授業デザイン

- 映像、音声付発表資料などの容量の大きいファイルを提出課題とするため、Google Classroomを使うことに
  - 結果的に良かった！ そこには思わぬ副次効果が・・・。

#### 授業デザイン

- 受講生の背景：入学したとはいえ一度も対面で会ったことがない
- 目標：ゼミのような小グループでのディスカッションや大多数の前でのプレゼンテーションができるようになることを想定 (法学部の受講生が多いので、例年はディベートもしているが、今回は実施困難と考え、割愛)
- 目的：アカデミックな場面での口頭 (発表) 能力を養成する。具体的に、以下の 4 点
  - ① どう見るか [多角的な観点を持つ]
  - ② どう考えるか [論点を絞る]
  - ③ どう伝えるか [聞き手と構造を意識して話す]
  - ④ どのように相手からさらに有用な情報を引き出すか [質問力を鍛える]

### 3. 授業デザイン ～発表の表現・スキルの基礎と思考トレーニング～

No	内容	課題とフィードバック
1	授業説明/予習シミュレーション 問答ゲーム① ・口頭発表の構成について学ぶ。 ・聴き手になるにはどうしたらよいかを学ぶ。	自分の学習目標のクリア率を見て、どのクラスでどのような口頭発表能力が求められているかを、Google Classroomにアップロード
2	アクティビティ形式 (1) ・情報収集の方法、リソースの使い方について学ぶ。 ・司会役の方、司会役の書き方を学ぶ。	指定されたテーマについて、日本と自分の国での状況を情報収集し、まとめたものを Google Classroom にアップロード
3	アクティビティ形式 (2) デイスカッション アクティビティ形式 (3) フェードルとインフォーマルスタイルの使い分けを学び、練習を行う。	授業内で決めたテーマに対する意見を述べた動画を Google Classroom にアップロード
4	アクティビティ形式 (2) デイスカッション レポート・論文・発表の中での読者の流れや事象を説明する練習を行う。	あらかじめ指定する文章 (A4〜A7 程度の長さ) を読み、シリアスな書き方で Google Classroom にアップロード
5	アクティビティ形式 (3) シリアスを聞いた説明 自分の持っている情報を相手に伝える。相手と理解確認をしながら、聴き手の理解とすり合わせて一つの論拠にとらめられたい。	
6	アクティビティ形式 (1) 口頭発表と質疑応答場面においてよく使われる表現を学ぶ。 「期」の観点から (期) を立てる練習	授業内で決めたテーマに対する意見を述べた動画を Google Classroom にアップロード

#### 問答ゲーム (アイス・ブレイキング)

##### ③ どう伝えるか (聞き手と構造を意識して話す)

- A 「主語→根拠→結文」の順に話す。
  - B 主語を明確にする。
  - C SWH を明確に提示する。
  - D 単語で読まない。
  - E 禁止用語：わかない・別に・ビミョー・なんとなど
- 三森 (2013: 30-31)

No	質問	回答例
1	あなたはスポーツが好きですか？	はい、私はスポーツが好きです。(主語) なりたいと。スポーツをする健康になるだけでなく、気分がリフレッシュするからです。(根拠) だから私はスポーツが好きです。(結文)
	あなたは芸術と文学をどう思いますか？	私は芸術のほうが人生を豊かにすると思います。(主語) なぜなら、芸術は文化や時空を超えて人々の創造力を刺激するからです。感動すると思いませんか？ (根拠) だから私は芸術のほうが人生を豊かにすると思います。(結文)

### 3. 授業デザイン ～発表の表現・スキルの基礎と思考トレーニング～

No	内容	課題とフィードバック
1	授業説明/予習シミュレーション 問答ゲーム① ・口頭発表の構成について学ぶ。 ・聴き手になるにはどうしたらよいかを学ぶ。	自分の学習目標のクリア率を見て、どのクラスでどのような口頭発表能力が求められているかを、Google Classroomにアップロード
2	アクティビティ形式 (1) ・情報収集の方法、リソースの使い方について学ぶ。 ・司会役の方、司会役の書き方を学ぶ。	指定されたテーマについて、日本と自分の国での状況を情報収集し、まとめたものを Google Classroom にアップロード
3	アクティビティ形式 (2) デイスカッション アクティビティ形式 (3) フェードルとインフォーマルスタイルの使い分けを学び、練習を行う。	授業内で決めたテーマに対する意見を述べた動画を Google Classroom にアップロード
4	アクティビティ形式 (2) デイスカッション レポート・論文・発表の中での読者の流れや事象を説明する練習を行う。	あらかじめ指定する文章 (A4〜A7 程度の長さ) を読み、シリアスな書き方で Google Classroom にアップロード
5	アクティビティ形式 (3) シリアスを聞いた説明 自分の持っている情報を相手に伝える。相手と理解確認をしながら、聴き手の理解とすり合わせて一つの論拠にとらめられたい。	
6	アクティビティ形式 (1) 口頭発表と質疑応答場面においてよく使われる表現を学ぶ。 「期」の観点から (期) を立てる練習	授業内で決めたテーマに対する意見を述べた動画を Google Classroom にアップロード

#### 反転授業

・第2回～第3回 ロールプレイ×ディスカッション

- ① どう見るか [多角的な観点を持つ]
- ② どう考えるか [論点を絞る]

**反転授業 (flip teaching / flipped classroom)**  
授業と宿題の役割を「反転」させる授業形態。  
ブレンド型学習 (オンライン+対面等) の形態の一つとしても含まれる。  
従来は「授業」→「復習・演習」だったものを、反転授業では「予習」→「授業内での演習」という形で行う。  
反転授業では、学生が授業に先立って知識の習得を済ませておき、授業では講義の代わりに、クラスメートとのディスカッションや問題解決学習を行う。  
学習意欲やコミュニケーション能力、問題解決能力の向上などの効果が期待される。

### 3. 授業デザイン ～発表の表現・スキルの基礎と思考トレーニング～

No	内容	課題とフィードバック
1	授業説明/予習シミュレーション 問答ゲーム① ・口頭発表の構成について学ぶ。 ・聴き手になるにはどうしたらよいかを学ぶ。	自分の学習目標のクリア率を見て、どのクラスでどのような口頭発表能力が求められているかを、Google Classroomにアップロード
2	アクティビティ形式 (1) ・情報収集の方法、リソースの使い方について学ぶ。 ・司会役の方、司会役の書き方を学ぶ。	指定されたテーマについて、日本と自分の国での状況を情報収集し、まとめたものを Google Classroom にアップロード
3	アクティビティ形式 (2) デイスカッション アクティビティ形式 (3) フェードルとインフォーマルスタイルの使い分けを学び、練習を行う。	授業内で決めたテーマに対する意見を述べた動画を Google Classroom にアップロード
4	アクティビティ形式 (2) デイスカッション レポート・論文・発表の中での読者の流れや事象を説明する練習を行う。	あらかじめ指定する文章 (A4〜A7 程度の長さ) を読み、シリアスな書き方で Google Classroom にアップロード
5	アクティビティ形式 (3) シリアスを聞いた説明 自分の持っている情報を相手に伝える。相手と理解確認をしながら、聴き手の理解とすり合わせて一つの論拠にとらめられたい。	
6	アクティビティ形式 (1) 口頭発表と質疑応答場面においてよく使われる表現を学ぶ。 「期」の観点から (期) を立てる練習	授業内で決めたテーマに対する意見を述べた動画を Google Classroom にアップロード

#### 反転授業

- ・第4回～第5回 ジグソーリーディング × ビアレスポンス
- ③ どう伝えるか [聞き手と構造を意識して話す]

【活動 1】グループディスカッション (ピアレスポンス)  
共通のテーマについて、同じ章を読んできたグループのメンバーで、レジュメを共有し、情報の過不足のチェックや良いレジュメのまとめ方を伝え合う

【活動 2】ペア活動  
共通のテーマについて、異なる章を読んでレジュメをまとめてきたペア同士で、レジュメを見ながら情報をすり合わせて、概要を把握したり、問題点を話し合う

【活動 3】全体で情報共有  
コメントの共有、作成したレジュメの良い例、改善点

### 3. 授業デザイン ～発表の表現・スキルの基礎と思考トレーニング～

No.	内容	議題/フィードバック
1	授業前編/アセスメント/アセスメント 発表テーマ① →発表者の構成について形式、 発表の構成を話し合う形式を受講。	自分の学習履歴のシートを見て、どのクラスでどのような発表能力が求められているかをまとめる。Google Classroomにアップロード
2	アセスメント/発表① →増幅後の方法、リソースの使い分けについて形式、 →自分の学、自分の課題の書き方を学ぶ。	指定されたテーマについて、日本と自分の国での状況を情報収集し、まとめたものをGoogle Classroomにアップロード
3	アセスメント/発表② →フェードアウト/フェードインスタイルの使い分けを学び、 →適切な論理的な構成ができるよう練習を行う。	発表テーマ②
4	アセスメント/発表③ →あるテーマについて、それぞれの立場から意見を述べることに →なるように、異なる立場を切り取り、テーマに対する意見をまとめる。	授業内で決めたテーマに対する意見を述べた動画をGoogle Classroomにアップロード
5	アセスメント/発表④ →レポート・論文・発表の中での相手の流れや事象を説明する →相手の流れを学び、練習を行う。	ある社会問題に関する文章（A/B/C/D/E）を読み、その流れを説明し、システムを習得してGoogle Classroomにアップロード
6	アセスメント/発表⑤ →自分の持っている情報を即座に伝える。相手の理解を確認しながら、 →自分の持っている情報を即座に伝えるための準備をまとめる。 →発表を行う。	自分の発表における準備の観点について、事前に行うフィードバックの集約結果をGoogle Classroomにアップロード
7	アセスメント/発表⑥ →発表者の質問やコメントに対してよく使われる表現を学ぶ。 →問いの観点/フレームから問いを立てる練習 →発表テーマ③	自分の学習履歴のシートを見て、どのクラスでどのような発表能力が求められているかをまとめる。Google Classroomにアップロード

■ 問いのフレーム → 問いを立てる

④ どのように相手からさらに有用な情報を引き出すか [質問力を鍛える]

よづける側(質問側)	聞き手側(回答側)
どんな？	【目的】
どういう意味？	【目的】
いつ(から/まで)？	【目的】
どこで？	【目的】
誰？	【目的】
いかにして？	【目的】
どんな？	【目的】
どうやって？	【目的】
なぜ？	【目的】
他ではどうか？	【目的】
これについては？	【目的】
これはなぜ？	【目的】
すべてでいいのか？	【目的】
どうすればいい？	【目的】

戸田幸和(2003)『論文の書き方』日本放送出版協会 (NHKブックス)

④ ！も、問いがた(さん)出たので共有のためにmanabaのスレッド (掲示板) を立てたが、誰も投稿せず...

### 3. 授業デザイン ～発表練習～

7	プレゼン演習 (1) ・短いプレゼン演習を行う。 ・自分と異なる専門分野の(共通の背景知識を持たない)人に理解してもらうことを意識する。 ・相手の発表を見て、「良い質問」の演習を行う。	クラスメートの発表に対するコメント付き相互評価シートをGoogle Classroomにアップロード →受講者毎にコメント付きの評価シートをまとめる。Google Classroomのコメント機能で個別フィードバック
8	プレゼン発表 (2) ・自分で日本語の発表が得意なオンラインラングラー(Online Japanese Agent Dictionary)を使って、原稿の読み上げ練習をする。 ・プレゼン演習を振り返り、改善点を見つける。また、パワーポイントを用いた発表の技術を受講。	3つのテーマ(社会問題)の中から1つ選ぶ。書きかけパワーポイントの発表資料をGoogle Classroomにアップロード
9	プレゼン演習 (2) ① ・プレゼン練習を行う。 ・テーマについて、ある立場や視点、切り口に立って自分の考えを明確に話す。 ・意見・立場表明の際の構造を意識して、「わかりやすい」発表を行う。	・クラスメートの発表に対するコメント付き相互評価シートをGoogle Classroomにアップロード →受講者毎にコメント付きの評価シートをまとめる。Google Classroomのコメント機能で個別フィードバック →自己評価(発表の振り返り) →受講者毎にGoogle Classroomのコメント機能で個別フィードバック
10	プレゼン演習 (2) ② ・相手の発表を見て、「良い質問」の演習を行う。	

総合的な練習

- ① どう見るか [多角的な観点を持つ]
- ② どう考えるか [論点を絞る]
- ③ どう伝えるか [聞き手と構造を意識して話す]
- ④ どのように相手からさらに有用な情報を引き出すか [質問力を鍛える]

自己評価(振り返り) + 他者評価で今後の発表に活かす

### 4. 授業運営

■ 出席 respon を使用  
Google Classroomでも  
「出席」のピックを作れば対応可  
(ただし、終了時刻の設定はできない...はず)

■ 配布物 Google Classroom 必ず事前にアップロードしておく

■ 課題 Google Classroom 公開開始・締切日時を設定、授業内でも必ず口頭で明示  
「提出」ボタンの押し忘れが多いので注意喚起  
締切を過ぎて提出されると、管理者にメールが通知される(自動的にGmailに紐づける)  
管理画面上には「提出済み」「遅れて提出」「未提出」と表示

■ 課題の質問&フィードバック コメント機能を使用  
気が付いたこと...メールより質問が増えた

### 4. 授業運営

■ Google Classroom 使用の副次的効果...反転授業の運営がやりやすくなった  
「事前課題」「事前/当日の配布物」「事後課題」がスグキリー一つにまとまり、見落としが少ない

~manaba~


~Google Classroom~

課題と配布物のタブがまたがるため、どうしても見落としが...

課題も配布物も一つのページに

### 4. 授業運営

- 評価
  - 試験は行わず、毎回の練習や課題、演習でのパフォーマンスにより総合的に評価
  - 演習では、発表の際の注意点のチェック項目を発表の前に配布（教師・学生共通）
  - Google Classroomはルーブリックが作成できるので、フィードバックに用いることも可能
- ちなみに
  - 発表の順番決め
    - オンラインあみだくじ 「あみだ.com」 時間の節約 & ちよつと楽しい （無料・登録不要）
  - zoom 「投票」 機能
    - 事前にアンケートを作成しておき、受講者にその場で回答してもらおうと活性化
    - zoomの「ミーティング」設定 ★ 予め質問を作っておくとスムーズ



25


### 4. 授業運営

- フィードバック
  - ・音声言語を介した（ディスカッション等）フィードバック
    - zoomのブレイクアウトルーム機能では、各部屋が「閉じた」空間となり、ホスト（教員）は全体が見渡せない
    - フィードバックすべきタイミングを逸している可能性もある・・・課題
  - ・文字を介した（言語面や内容理解に関する）フィードバック
    - Google Classroomのコメント機能
    - Google DriveでGoogleドキュメントやスプレッドシートを受講者と同期し、その場で即座にフィードバック・・・学生に好評
- 採点
  - Google Classroomはルーブリックが作れる（レポートや作文の評価に便利）

26

### 4. 授業運営


- フィードバック
  - ・採点 各課題には点数を設定することができる
  - Google Classroomはルーブリックが作れる（レポートや作文の評価に便利）



27

### 5. 実践後の所感

- 意外に何とかなかった
  - 学生へのアンケート「オンライン授業でも対面授業と同じくらい十分な学習ができたと思う」
  - 肯定派 67% 否定派 22% 中立 11%
- 準備にかかる時間は通常の1.5～2倍
- モニターは3台使用で快適
  - 主モニター → メイン画面
  - 副モニター → 参加者画面
  - タブレット → 共有画面のチェック



28



## 参考文献

- 三森ゆりか (2013) 『大学生・社会人のための言語技術トレーニング』大修館書店
- 早川杏子 (2020) 「オンライン授業による学びのデザインとその実践—学部留学生を対象としたアカデミック場面における口頭能力の養成—」『一橋大学国際教育交流センター紀要』2 (印刷中)

## 参考ツール

- 株式会社朝日ネット 教育支援サービスmanaba <https://manaba.jp/>
- 株式会社レスポンス Respon <https://respon.jp>
- Google Classroom [https://edu.google.com/intl/ja/products/classroom/?modal\\_active=none](https://edu.google.com/intl/ja/products/classroom/?modal_active=none)
- Zoom Video Communications <https://zoom.us/>

29

ご清聴ありがとうございました

一橋大学 国際教育交流センター・特任講師 早川杏子  
hayakawa.k@r.hit-u.ac.jp

# オンデマンド型授業における チーム・ティーチング授業で見たもの

愛知大学  
国際コミュニケーション学部  
高村めぐみ

1

## 0. 実践したことを報告します

- コロナ禍でのいくつかの制約
- いろいろやってみて良かったこと、反省することを共有したい
- 先生方の秋学期の授業の際の参考になれば・・・

キーワード：

オンデマンド、LMS（ムードル（Moodle））

2

## 1. 背景（学生）

- 学部留学生「日本語」科目（共通教育科目）

名古屋キャンパス＝現代中国、国際コミュニケーション、法、経済、経営

1年生 47名（うち20名が未入国） 中国が半数以上

2年生 50名（うち14名が一時帰国中） 中国が3/4以上

- 4クラス同時開講

3

## 1. 背景（大学側）

- 愛知大学では、数年前から全科目でMoodleの利用可
- ほとんどの教師はMoodleの知識がある（年に数回、講習会）
- Moodleなら、事務方が全面的にサポートしてくれる
- 双方向オンラインのソフト（teams/zoom・・・）決定の議論だけ

4

## 1. 背景（学生側）

- Wifi環境が整っていない学生 ⇒ LANとPCの貸与 **国内のみ**
- 海外から受講する学生がいる
- 海外からスマホで受講する学生がいる？

5

## 2. 背景（日本語科目について）

外国語科目は各語学のコーディネーターが統一

- ⇒ **非同期型（オンデマンド型）授業**
- ⇒ **複数開講科目の統一教材**
- ⇒ **LMS( Moodle )を使用**

6

## Moodleとは

- ✓ 2001年にMartin Dougiamasによって、最初のリリースが行われた無料のオンライン学習管理システムです。
- ✓ 世界で230カ国以上、7,000万以上のユーザによって使われています。
- ✓ ビデオ、PDF、WORD、Excelなどを簡単にアップロードし、共有できます。
- ✓ 選択式、記述式など各種のテストを作ることができます。
- ✓ 細かな成績管理ができます。
- ✓ マルチ言語対応のサイト、コンテンツを作ることが可能です。
- ✓ フォーラム、Wiki、課題などのインタラクティブなコンテンツを簡単に作ることができます。
- ✓ 100名レベルから数万に規模まで対応が可能です。
- ✓ もちろん日本語もバッチリです。

参考：[https://www.e-learning.co.jp/?page\\_id=2090](https://www.e-learning.co.jp/?page_id=2090)<sup>7</sup>

## Moodleとは

- Google Classroomとよく似ている
- **中国でもアクセス可能**
- ⇒ ZoomやTeamsのURLもここに掲示
- 教師と学生の「窓口」の一本化
- とにかく授業に関することは、Moodleにアクセス！

8

愛知大学Moodle 2020 日本語 (ja) (教員) 高村 めくみ

第2回目 (高村) 5/19 『レポート・論文』第1課

利用可能 2020年 05月 12日 14:30 より利用可

- 第1課-1 音声
- 第1課-2 音声
- 第1課-3 音声
- 第1課-4.5 音声
- 第1課-まとめ HW 音声

9

### 3. 「日本語」 (目標)

長期目標： **レポート・論文**の書き方の基礎を身に付け、  
3年生からのゼミでの卒論執筆にスムーズなスタートが  
切れること。 **論文が書ける人**になって！

**1年春：レポート・論文を書くための文法の基礎力**

1年秋：文献を読み込むための読解力とクリティカルな視点養成

**2年春：文献を要約する力、論点を組み立てて意見を述べる力**

2年秋：論文を実際に1本書く練習

10

### 3. 「日本語」 (クラス分け)

- 例年はプレースメントテストによるクラス分け
- 文法・読解の能力別クラス

⇒ 今年：1年生は、学部別を基本にクラス分け  
2年生は、前学期の成績でクラス分け

11

### 非同期型 (オンデマンド) の種類

- 放送大学型： 自分で撮影やや難、容量大
- Youtube型： 自分で撮影可、編集難
- スライド音声型： PPTで作成可能、ページごとに音声付加、  
動画にも変換できる
- ラジオ講座型： 容量小
- 課題アップ型： 容量極小、学生の様子が分からない

⇒ 作った動画や音声や課題ファイル：  
**Moodle**を介して学習者とやり取り

12

### 4.1 授業内容

#### 1年春：レポート・論文を書くための文法の基礎力

- 留学生対象の『文法』の教科書  
⇒生協が郵送、ネットや現地で購入
- 予習 ⇒教科書解説（ラジオ講座型）+問題 ⇒自分で答え合わせ
- 授業時間は質問に答える時間（メール、チャット）

### 4.2 授業詳細 予定表（1年生）

	Aクラス（田中）	Bクラス（山田）	Cクラス（高村）	Dクラス（伊藤）
1	オリテ	オリテ	オリテ	オリテ
2	第1課	第1課	第1課	第1課
3	第2課	第2課	第2課	第2課
4	復習	復習	復習	復習
5	第3課	第3課	第3課	第3課
6	第4課	第4課	第4課	第4課
7	復習	復習	復習	復習
8	第5課	第5課	第5課	第5課
9	第6課	第6課	第6課	第6課
10	復習	復習	復習	復習
11	第7課	第7課	第7課	第7課
12	まとめ	まとめ	まとめ	まとめ

### 4.2 授業詳細 予定表（1年生）

				担当	
1	オリテ	オリテ	オリテ	オリテ	高村
2	第1課	第1課	第1課	第1課	高村
3	第2課	第2課	第2課	第2課	高村
4	復習	復習	復習	復習	山田
5	第3課	第3課	第3課	第3課	山田
6	第4課	第4課	第4課	第4課	山田
7	復習	復習	復習	復習	伊藤
8	第5課	第5課	第5課	第5課	伊藤
9	第6課	第6課	第6課	第6課	伊藤
10	復習	復習	復習	復習	田中
11	第7課	第7課	第7課	第7課	田中
12	まとめ	まとめ	まとめ	まとめ	田中

### 4.3 授業内容

第2回 5/19 L1(教科書+ラジオ講座型)⇒5/12(火) 第1回終了後から利用可  
L2予習の宿題提出 ⇒5/26(火) 第3回授業開始前が締切  
第3回 5/26 L2(教科書+ラジオ講座型)⇒5/19(火) 第2回終了後から利用可  
L3予習の宿題提出 ⇒6/2(火) 第3回授業開始前が締切

5/10日	11月	12 火	13 水	14 木	15 金	16 土
		19 第2回 L1	20	21	22	23
		26 第3回 L2	27	28	29	30
	6/1	2 第4回 L3		4	5	6

※授業時間は教師がチャット+メール待機

※出席は取れない  
(=宿題を出せばよい)

※宿題の解答を学生が持っている  
のでとにかく提出すればよい

⇒後に評価で苦勞

## 4.4 教師の感想

### 1年生

#### 【メリット】

- 自分の担当回の準備だけすればよいので、教師の負担が減る

#### 【デメリット】

- 学生への指導時の言葉の選択が難しい（面識がない学生ばかり）
- 学生の時系列的な成長が見られない
- みんな「S」になりそうな勢い⇒**解答がない課題、期末の評価**

⇒学生の評価・・・まあまあ、うまくいった？

17

以上、1年生の授業についてでした

18

## 5.1 授業内容

**2年春：文献を要約する力、論点を組み立てて意見を述べる力**

新聞記事4つ×要約、意見文

19

## 5.1 授業詳細 予定表（2年生）

	Aクラス（田中）	Bクラス（山田）	Cクラス（高村）	Dクラス（伊藤）
1	オリテ	オリテ	オリテ	オリテ
2	記事①読解・要約	記事①読解・要約	記事①読解・要約	記事①読解・要約
3	記事①意見文	記事①意見文	記事①意見文	記事①意見文
4	復習			
5	記事②読解・要約	記事②読解・要約	記事②読解・要約	記事②読解・要約
6	記事②意見文	記事②意見文	記事②意見文	記事②意見文
7	復習			
8	記事③読解・要約	記事③読解・要約	記事③読解・要約	記事③読解・要約
9	記事③意見文	記事③意見文	記事③意見文	記事③意見文
10	記事④読解・要約	記事④読解・要約	記事④読解・要約	記事④読解・要約
11	記事④意見文	記事④意見文	記事④意見文	記事④意見文
12	まとめ			

20

### 5.1 授業詳細 予定表 (2年生)

					担当
1	オリテ	オリテ	オリテ	オリテ	高村
2	記事①読解・要約	記事①読解・要約	記事①読解・要約	記事①読解・要約	高村
3	記事①意見文	記事①意見文	記事①意見文	記事①意見文	高村
4	復習				山田
5	記事②読解・要約	記事②読解・要約	記事②読解・要約	記事②読解・要約	山田
6	記事②意見文	記事②意見文	記事②意見文	記事②意見文	山田
7	復習				伊藤
8	記事③読解・要約	記事③読解・要約	記事③読解・要約	記事③読解・要約	伊藤
9	記事③意見文	記事③意見文	記事③意見文	記事③意見文	伊藤
10	記事④読解・要約	記事④読解・要約	記事④読解・要約	記事④読解・要約	田中
11	記事④意見文	記事④意見文	記事④意見文	記事④意見文	田中
12	まとめ				田中

### 5.2 授業内容

- 第2回 5/19 **記事①の意見文** ⇒ **宿題** (5/25(火))
- 第3回 5/26 **記事①要約文のFB + 記事②の要約** ⇒ **宿題**
- 第4回 6/02 **記事①意見文のFB + 記事②の意見文**

5/10	11	12	13	14	15	16
日	月	火	水	木	金	土
17	18	19 第2回 記事①意見文	20	21	22	23
24	25	26 第3回	27	28	29	30
31	6/1	2 第4回 記事①意見文FB		4	5	6

※授業時間は、教師がチャット + メール待機

※出席は取れない  
(=宿題を出せばよい)

※5/26~6/1 FB + 動画作成

22

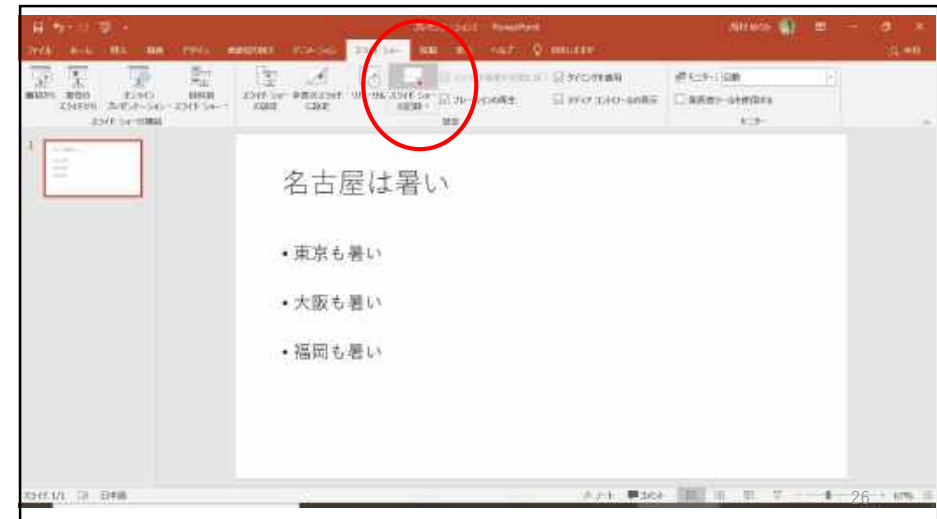
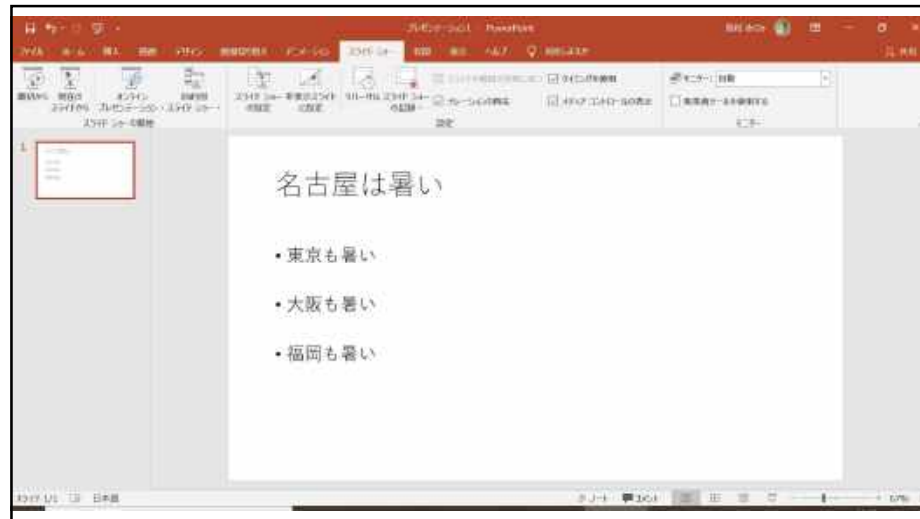
### 5.1 授業内容

- 課題中心 新聞を読んで、要約と意見文を黙々と書く ⇒ 添削  
⇒ つまらない? 辛い?
- 全体へのフィードバック (FB) 動画をオンデマンド配信
- 「FB動画の説明に気を付けて2 (~4) 本目の意見文を書こう」
- 授業時間は、質問に答える時間 (メール、チャット) ⇒ **時間外も多かった**

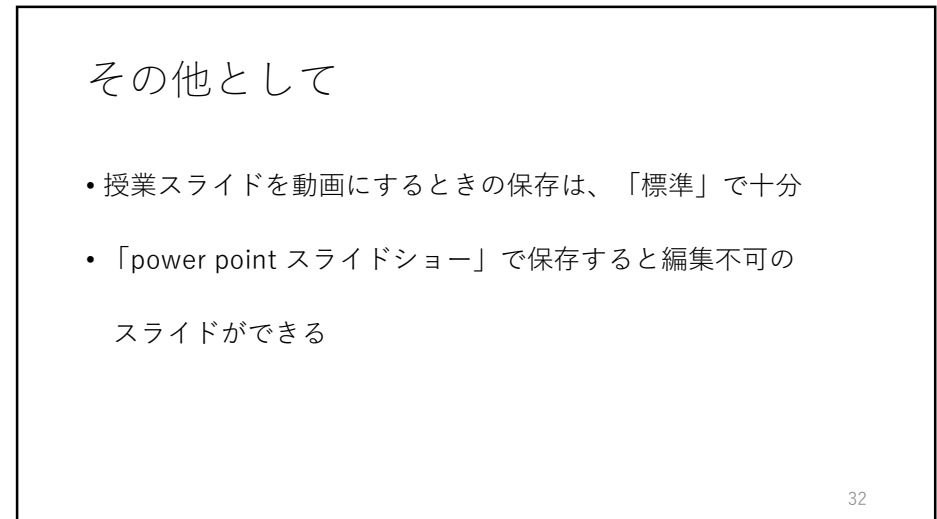
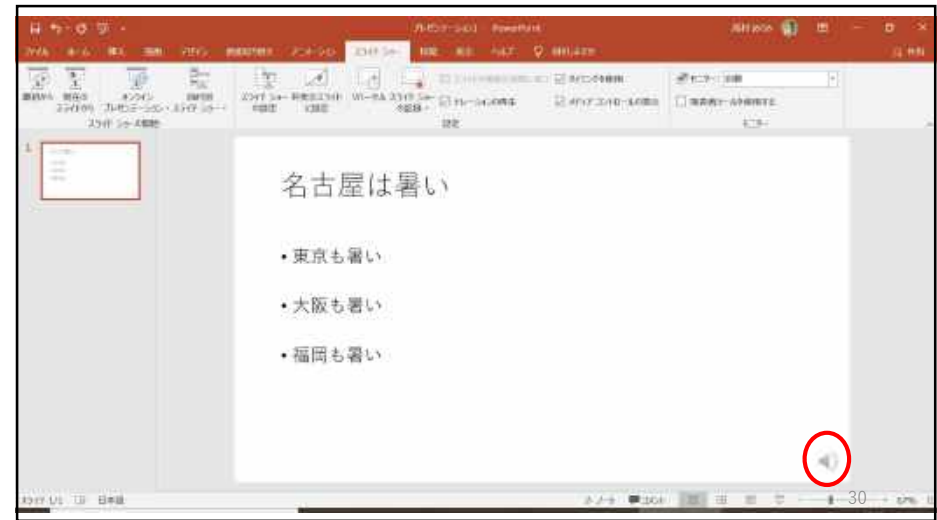
23

### PPTを使った動画の作り方

24







## 説得力のある「意見文」

33

### 「説得力」とは？

- 自分以外の人も言っている！！

①新聞、雑誌（ファッション雑誌ではない。  
→ **学術雑誌**）

= 多くの人を読んでOKを出している  
→ cf: Wiki

34

## 5.3 教師の感想

### 2年生

#### 【メリット】

- 例年より期末課題が良かった（⇒ F B動画を繰り返し視聴）人もいる

#### 【デメリット】

- 50名分の要約、意見文の添削は地獄（←次週までにF B希望）
- その時に一緒にF B動画もあげてあげたい（←疲労困憊）
- 教師間の評価基準のばらつき露呈（←ビリーフ）  
⇒むしろメリットか？

35

以上、2年生の授業についてでした

36

## 6. まとめ

- 1年生：講義中心は、オンデマンドが良い  
講義中心での分業は、教師の負担が少なくなる  
：意外と「ラジオ講座風」が好評（⇒対面授業に近い感覚？）
- 2年生：フィードバックの動画の繰り返し視聴に学習効果あり  
＝対面でも継続可能  
：作文・レポート授業は、少人数を担当したほうがよさそう  
：教師間の共通認識（⇒コーディネーターの詳細な指示要？）

37

## 7. 今後のこと

- 一人で全部するのは大変 ⇒ 分業のススメ
- 対面になってからも使える教材 ⇒ △「Aクラスの王さんの…」
- オンライン授業の長期化を視野に ⇒ 少しずつ拡張させていく  
例：2年の秋には「参考文献」「問いの立て方」「反駁」…
- 授業時間は質問に答える時間 ⇒ 実際はいつでもメール  
話したほうが早いときもある  
長期化の場合、教師も負担

38

ご清聴ありがとうございました

takamura@aichi-u.ac.jp

39